釈迦内地区 ひまわりプロジェクト

～太陽に向かうひまわりに地域の明るい未来を託して～

地域活性化に取り組む団体にスポットを当て、取材で感じた地域の人たちの想い、プロジェクトの生み出すパワーや効果などを市民の皆さんにご紹介する特集です。

初回は、釈迦内地区まちづくり協議会（会長 伊藤秀夫さん）の推進する「ひまわり」での活性化策。実行組織の「釈迦内SP（Sunflower Project）（委員長 日景賢悟さん）」の取り組みとは？

突撃インタビューからスタート

まずは自分がこのプロジェクトを良く知らなくては！ と思い釈迦内SP実行委員会副委員長の五十嵐經さん（釈迦内小学校校長）を訪ねました。

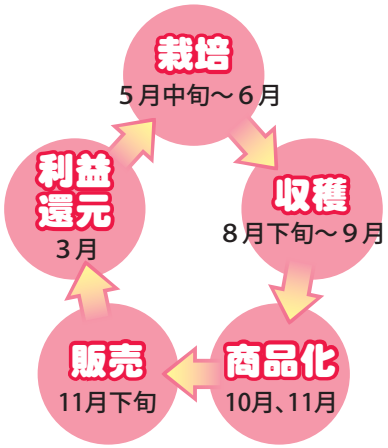
プロジェクトの始まりは？

釈迦内小学校が中心になって取り組んだ「元気いっぱいひまわり油」プロジェクトが、昨年度の「地域の魅力発信アイディアコンテスト（東北経済産業省主催）」で大賞を受賞したことをきっかけに、運動を地域に広げ、子どもから大人まで多くのかたが参加できるようにすることで、地域を活性化させようというのが始まりです。

なぜ釈迦内でひまわり？

明治7年に地区にある実相寺内に開学した「向陽小学校（現釈迦内小学校）」のシンボルであったことに由来し、古くから地区のシンボルとして親しまれてきたのがひまわりなんです。

年間のサイクルは？



と、ここまではほんの触りの部分。プロジェクトの本質や仕組み、効果などは、インタビューで得た3つのキーワードに分けてご紹介します。

プロジェクトについて教えてくれた五十嵐副委員長

キーワード①「教育」

「子どもたちに『食』をとおして、様々なことを知って欲しいですね」と学校全体での食育の取り組みを紹介。「自分たちで育てたものを自分で食べる」という意味の「自産自消」という言葉を造ったほどの力の入れよう。

その中でもひまわりプロジェクトは中心的存在で、第一次産業から第六次産業まで、すなわち栽培、収穫、商品化、販売までの行程を児童に経験させ、企業の精神を学びながらその収益が自分に還元されるというキャリア教育の実践の場になっているとのこと。

収益が還元されるとは？

収益によって、様々な経験ができるということ。例えば修学旅行。積み立てに前年の収益を足すことによって、宿泊を多くすることができます。昨年、今年と県の補助金を活用して北海道木古内町に宿泊研修で2泊し、函館市に

第六次産業とは 農業や水産業などの第一次産業が、食品加工・流通販売にも業務展開している経営形態を表わす言葉です。